

ホッキ資源と干潟等の保全 未来への引き継ぎを目指して

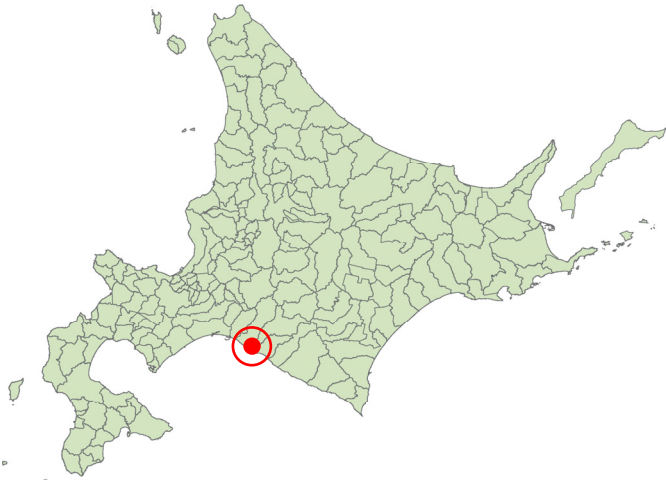
富浜ホッキ部会

地域の特徴

日高町（人口約 1 万 2.6 千人）は北海道日高管内の西部に位置する。2006 年に内陸の旧日高町と旧門別町が飛び地合併し、廃置分合され新たな「日高町」となった。旧日高町は農業（畑作）、林業が主産業であるが、旧門別町は農業（稲作、畑作）、酪農、馬産、漁業が主産業である。

漁業については、沿岸漁業が主であり秋サケ、ヒラメ・カレイ類、タラ類、タコなどに加え、ホッキやツブ類などの貝類の水揚げがある。

本活動組織が干潟等の保全を図る富浜地先は、太平洋に面し、日高町を代表する沙流川が流入しており、沙流川河口東側に位置する富浜漁港(第1種)と河口に挟まれた浅場である。



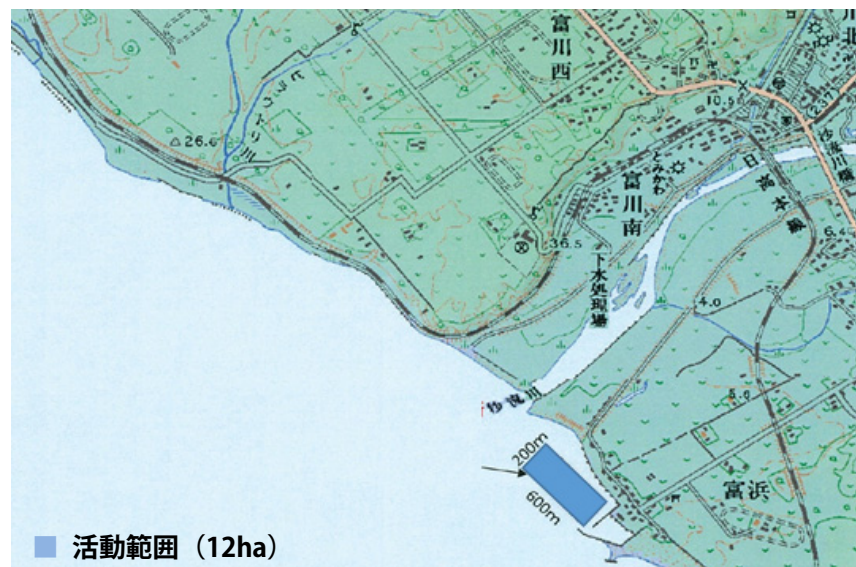
富浜ホッキ部会の活動について

設立：平成 25 年 8 月 6 日

体制：現在の会員数 12 人

本地区では、水産多面的機能発揮事業の取組を開始し、主に稚貝の放流場所の耕うん（噴流マガン式）と稚貝の放流場所でのホッキの密度管理を行ってきた。平成 23 年の東日本大震災以降、水揚げが減少傾向にあったため漁場の見直し、漁場造成に力を入れ一時的に稚貝放流を見合わせたが、近年、本活動による取組の成果もあり水揚げ増に繋がっている。

活動内容
噴流式桁網を用いた耕うん
稚貝の密度管理
モニタリング調査（ホッキ資源量や生息状況、稚貝発生量等）



干潟等の保全活動



耕うん作業



稚貝の密度管理



モニタリング調査



モニタリング調査

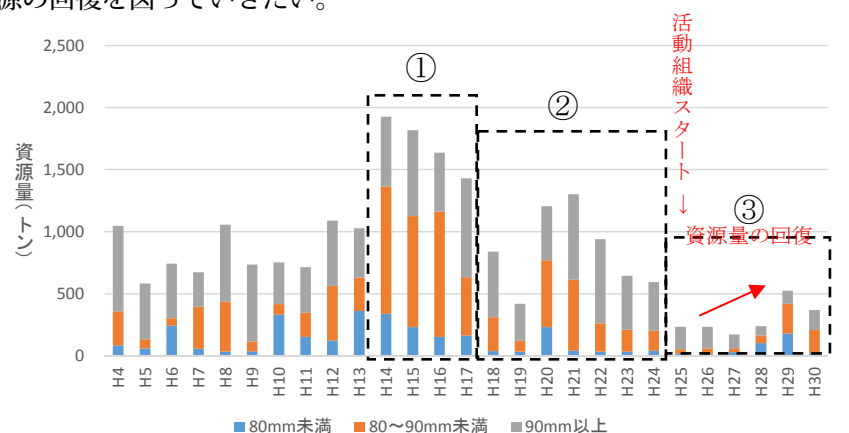
干潟等の保全効果について

富浜地区のホッキの資源量（トン数）について、北海道日高地区水産技術普及指導所静内支所が調査を継続実施してきた。下図に H4～H30 年の 27 年間の推定資源量の推移を示し、直近 15 年の資源状況を以下に整理した。

資源量の推移より、直近 15 年の資源状況は、①～③の 3 つの期間に大別された。大別される期間として、①H14～17 が高水準期（4 年平均 1,700t）、②H18～24 を中水準期（7 年平均 850 t）、③H25～30 を低水準期（6 年平均 300t）となった。さらに、各期間の平均漁獲率（漁獲量/90mm 以上の資源量）を算出すると、①期が 6.7%、②期が 8.4%、③期が 14.2%となり、資源量の減少と共に漁獲圧が明らかに高くなっていることがわかった。また、資源を維持している他地区を参考にすると、平均漁獲率を 3～5%に抑えていることから、当該地区は他地区に比べ資源量が少ない現状で漁獲圧が 2 倍以上となっていることがわかった。

そこで、本地区では噴流式桁網を用いた耕うんでホッキの生息環境を改善し、資源の回復を促進するために稚貝の密度管理を行い、加えて漁獲圧を低減させる取り組みを実施した。その結果、資源量は、平成 27 年まで低下したが、その後増加に転じ、平成 29 年には 525t まで回復した。

今後も、本活動組織の取り組みと資源管理の強化の両輪で、ホッキ資源の回復を図っていきたい。



富浜地区のホッキ資源量の推移 (トン)